

Gサイクルによる学びの協働化への挑戦

Gサイクルは具志川高校のPDCAサイクル

GサイクルのGは・・・具志川高校のG、グループ学習のG、グローバルのG、グローリーのG

1月26日(木)に、平成28・29年度の2年間に亘る「沖縄県教育委員会学力向上推進研究モデル校」としての研究中間発表が本校視聴覚教室で行われました。

これは、1年間の研究成果を公開発表し、課題の検証や研究成果を確認し次に続く次年度へのステップにするとともに、今後の本校独自の学力向上対策を構築するための手がかりを掴むためのものです。

発表は研究主任の山口栄臣先生と副主任の伊地志穂子先生が発表を担当し、会の進行役は安里盛孝先生が当たりました。

まず、生徒の実態分析を、①入学当初の成績と比較して学力が十分に伸びていない、②生徒の特性を活かせば、意欲的に学習に取り組むのではないかとし、研究主題設定の理由及び研究仮説で、①定期考査前のグループ形式での学習会の実施、②NOLTYスコラ手帳の積極的な活用、をとおして③学習活動や部活動を主体的、計画的に取り組むことになり → 高い目標をめざす生徒を育成できるのではないかと考えました。

NOLTYスコラ手帳の活用方法については、主にクラス担任を中心にPlan、Do、Check、Actionを週毎のルーティーンとして行い、日々の学習時間のチェックを「基本学習時間」と「目標学習時間」に分け、その達成度を検証しました。さらに家庭との連携を図る工夫もそれぞれのクラス担任のアイデアでコミュニケーションツールとしての活用等が図



られ、生徒のアンケート結果からは6割の生徒が手帳を活用し、5割の生徒が改善が図られているとありました。

定期考査前の放課後グループ学習のアンケート分析としては、①学習会は高評価を得ている、②学習するきっかけとなった、③職員の生徒に対する調査の裏付けが取れた、④自分では学習できないが、グループだと学習できる、と肯定的な分析の反面、⑤自学自習できる生徒にとっては不要、⑥さらなる実施方法の検討、と課題も発見できました。

当日は、県立学校教育課から担当の黒島直哲指導主事が来校され、異例?!の自作スライドを用いた具体的かつ的確な御指導御助言を頂きました。ありがとうございました。感謝いたします。



さて、私達を取り巻く生活環境は日々、急速な変化を遂げています。その社会の変化を見据えて、国においては学力の三要素、1. 知識技能の十分な修得 2. 修得した知識技能の活用による思考力判断力表現力の育成

3. 主体性をもち多様な人々と協働して学ぶ態度を「高大接続改革」と「アクティブラーニング」を大きな柱に据

えて高校教育改革がなされようとしています。つまり、これからの厳しい時代を生き抜いていける生徒を育てていかなければならない使命が現在の高等学校には課せられています。

G高の学力向上対策においては、これからのさらに複雑な社会にあって、何事にも積極的に挑戦し、失敗しても決してめげず、前向きに少しずつ勉強を積み重ねていき、確かな実力(INOVATION)、発想力(IMAGINATION)、創造力(CREATIVITY)を生徒に身につけさせる研究が続きます。

Gサイクルイメージ図

